

「アジア太平洋障害者の十年(2003～2012年)」最終年記念

障害者関係功労者内閣総理大臣表彰記念フォーラム

第12回 全国LD親の会公開フォーラム

# 特別支援教育の推進

～一人一人の学びを保障する支援の在り方～

配布資料集

2013年6月9日(日)

ドーンセンター

(大阪府立男女共同参画・青少年センター)

## 第12回 全国LD親の会公開フォーラム

### 特別支援教育の推進

### ～一人一人の学びを保障する支援の在り方～

#### 【開催要項】

日 時 : 2013年6月9日(日) 10:15-17:30 (開場 9:50)

会 場 : ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター) 7F ホール  
〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号

#### <交通>

京阪天満橋駅・地下鉄谷町線天満橋駅:1番出口から東へ350m

JR東西線大阪城北詰駅2号出入口から西へ550m

会 費 : 1,500 円

定 員 : 500 名

主 催 : 特定非営利活動法人 全国LD親の会

後 援 : 厚生労働省、文部科学省、大阪府、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、  
堺市教育委員会、滋賀県教育委員会、京都府教育委員会、京都市教育委員会、  
奈良県教育委員会、和歌山県教育委員会、兵庫県教育委員会、  
神戸市教育委員会、一般社団法人日本LD学会、NPO法人日本障害者協議会、  
公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会、  
一般社団法人日本発達障害ネットワーク、NPO法人アスペ・エルデの会、  
NPO法人エッジ、NPO法人えじそんくらぶ、社団法人日本自閉症協会、  
社会福祉法人NHK厚生文化事業団近畿支局、  
社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団、  
社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団、  
公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団、社会福祉法人読売愛と光の事業団

NPO 法人全国 LD 親の会 : 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415

電話 03-6276-8985 FAX 03-6276-8985

URL <http://www.jpald.net/> E-MAIL [jimukyoku@jpald.net](mailto:jimukyoku@jpald.net)

# プログラム

10:15-10:20 開演挨拶

10:20-11:30

【基調講演】「読み書き障害のある子どもの基礎理解と関わり方について」  
竹田 契一（大阪教育大学名誉教授・大阪医科大学LDセンター顧問）

11:30-12:40

【特別講演】「発達障害児・者の学習・生活・就労をテクノロジーにより支援する」  
近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

<昼休憩>

13:40-15:20

【行政解説】「特別支援教育・発達障害支援行政の最新情報と  
目指すべき方向性」

文部科学省 大山 真未（特別支援教育課 課長）

厚生労働省 阿萬 哲也（障害福祉課 障害児・発達障害者支援室室長）

<休憩>

15:30-17:30

【シンポジウム】「すべての子どもの学びを保障するために」

司 会 内藤 孝子(NPO法人全国LD親の会)

話題提供 教育行政の立場から 今川 恵美子（池田市立石橋小学校）

教員の立場から 山田 充（堺市立日置荘小学校）

保護者の立場から 井上 育世（NPO法人全国LD親の会）

指定討論 近藤 武夫(東京大学先端科学技術研究センター准教授)

17:30 終演挨拶

## 【特別講演】

「発達障害児・者の学習・生活・就労を  
テクノロジーにより支援する」

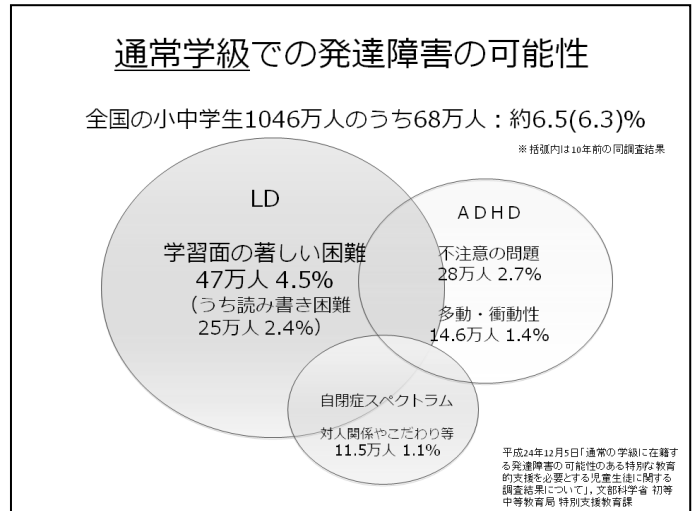
近藤 武夫

(東京大学先端科学技術研究センター准教授)

## 発達障害児・者の学習・生活・ 就労をテクノロジーにより支援する

近藤武夫  
東京大学先端科学技術研究センター

1



2

## 学習の困難

- 「読み書き, 学習が困難であること」は「学ぶ力がないこと」とイコールではない
- 障害のある部分をテクノロジーで補い, 本質的な学び(およびその後の就労)を実現することができる

3

## アクセシビリティ確保の重要性と印刷物障害

- 印刷物障害 (Print disabilities)
  - 紙の印刷物を読むことに困難のある障害
    - 視覚障害, 肢体不自由, LDが主に該当する障害
    - 教材や指導に用いられる情報へ「アクセスできる環境があるかどうか (Accessibility)」の問題から, 障害が生じていると考える
  - 翻って「紙の印刷物以外の形式 (Alternative format/media) であれば読むことができる障害」

4

## 障害のある子どもの支援実態

- 日本と米国の実状

国名	障害児数	生徒総数	総人口
日本	34万4千人	1千万人	1億2千万人
米国	630万人	5千万人	3億1千万人

- 米国の630万人はIDEA法に基づく個別教育プログラムを受けており, 630万人中, LD児は240万を占める…「教育のアクセシビリティ確保」が第一義とされる(ドロップアウトを防ぐ)

出典: 文部科学省, 特別支援教育資料(平成23年度)(義務教育で1, 通級指導6万5千人, 特別支援学級15万5千人, 特別支援学校は12万6千人)の統計, 米国統計はED Data Express(2011)より

5

### テクノロジー利用によるアクセシビリティ確保: 学力テストの得点変化 (DO-IT Japanの実践より)

国語	配慮	なし(満点100点換算)	あり(満点100点)
	A(5年男児)	33点	63点
B(5年女児)	39点	83点	
C(5年男児)	30点	76点	
D(中1男児)	33点	76点	

算数	配慮	なし(満点100点換算)	あり(満点100点)
	A(5年男児)	63点	67点
B(5年女児)	31点	54点	
C(5年男児)	33点	72点	
D(中1男児)	0点	67点	

6

## 学びのアクセシビリティに関する セーフティネットの不在

### ・教科用図書(教科書)の状況

- 文科省教科書目録(平成25年度)より
  - ・小学校 280点
  - ・中学校 131点
  - ・高校 1,232点
  - ・特別支援学校 113点
- 例:マルチメディアDAISY教科書(平成25年度)
  - ・小学校 69点
  - ・中学校 48点

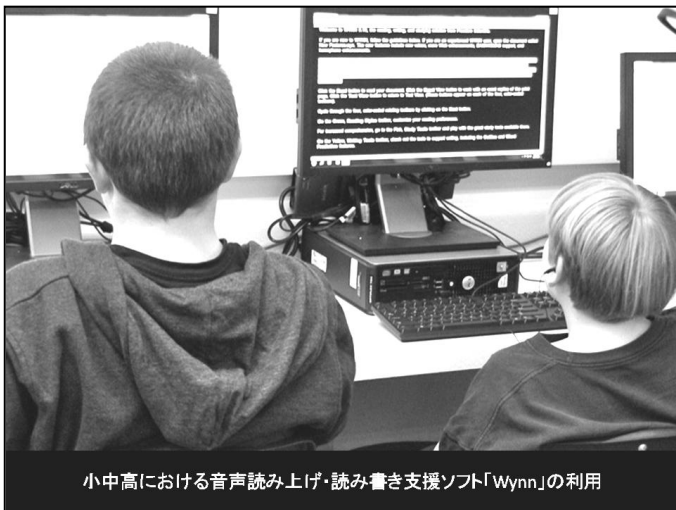
7

## テクノロジーの利用

障害当事者の自立を目的としたテクノロジー利用が法的背景に基づいて教育場面で一般化している

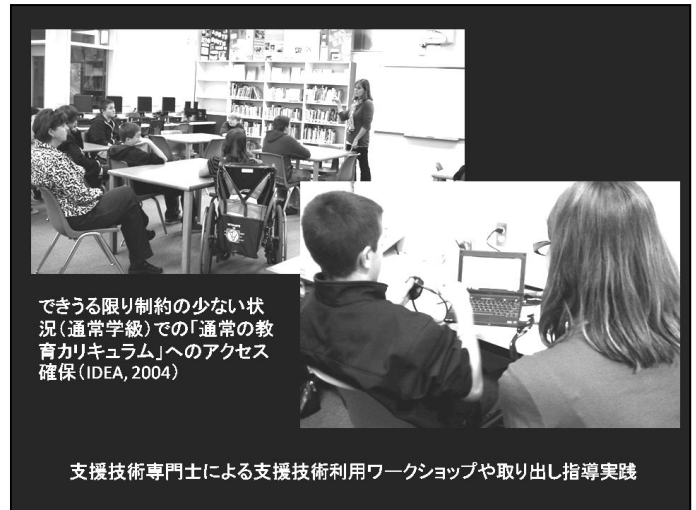
- a) 音声読み上げソフトウェア
  - テキストデータを自動的に音声に変換する市販のソフトウェア利用
- b) 入力補助ソフトウェアや装置
  - ワードプロセッサ
  - 入力を支援する装置
  - 音声入力
- c) 専門家による支援技術の利用サポート
  - 支援技術士 (Assistive Technology Specialist) と呼ばれる支援技術と特別支援教育の専門家が学校での利用をサポート
  - 高等教育では障害学生支援室 (Disability Student Service) が対応

8



小中高における音声読み上げ・読み書き支援ソフト「Wynn」の利用

9

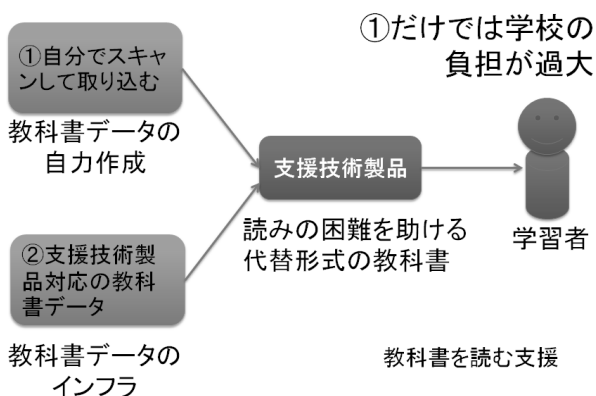


できる限り制約の少ない状況(通常学級)での「通常の教育カリキュラム」へのアクセス確保 (IDEA, 2004)

支援技術専門士による支援技術利用ワークショップや取り出し指導実践

10

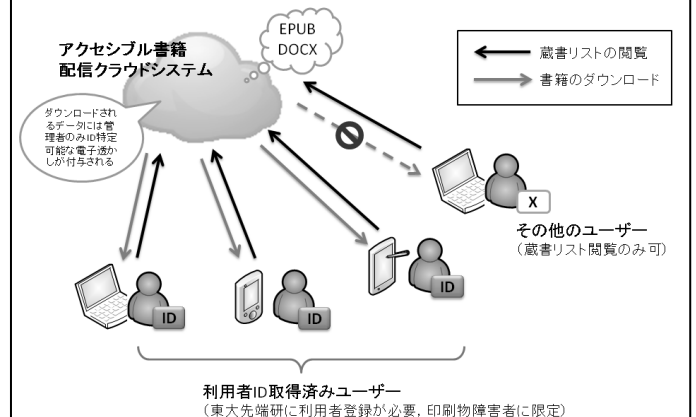
## 教材アクセスにおけるインフラの重要性



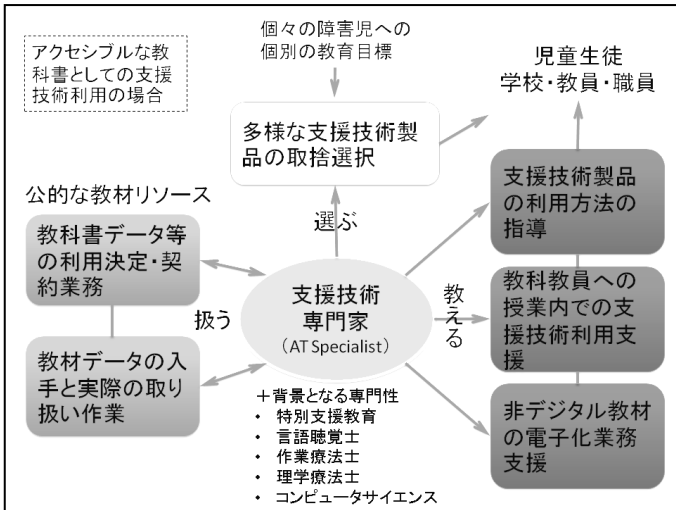
11

## 東大先端研 × Microsoftによるインフラ実践研究

<http://AccessReading.org>



12



13

### 聞いて読む, 読みやすく調整する

EPUB Reader (Windows8)

ふりがなつきワード文書読み上げアドオン「和太鼓」

iBooksと読み上げ

漢字をひらがなにしたり、分かち書きができる(ひらがな・なひい)

読み上げソフトによる音声読み上げ (Natural Reader)

14

### 音声で入力する

音声で文字入力する (AmiVoice SP)

iOSの音声入力

録音とメモを同期して記録  
Livescribe Pulse Pen/Echo

録音とメモを同期して記録  
Audio Note

ICレコーダー

15

### 情報を制限する

16

### ワープロで書く・思考をまとめる

OneNoteによるドリルの入力

ポメラによるノート

マインドマップ: 文意の視覚構造を通じた理解 (Mindmanager)

アウトラインエディタで構造を示す (FitzNote)

17

### 日常的な就労経験の機会保障

- 「東大先端研型ワークスタイル」を応用した障害学生インターンシップ
  - 障害のある多様な人材への就労機会創出を目指すワークスタイル
  - 個人の状況に合わせて「働ける時間範囲」から始めて自由に調整する(15分~8時間, 週1~5日まで)ことで就労機会を生む取り組み
  - ひとつの事業主体が少数の「常用雇用」を目指すよりも、多くの人が短時間で雇用しその総体として多人数の長期的な雇用の場を生み出そうとする/誰もが主体的に雇用を創出する機会に関わる関係性を生み出そうとする取り組み

18

## 東大先端研型ワークスタイルとの連携

- ・ 障害学生のキャリア教育への応用
  1. 合理的配慮の実践
  2. 積極的機会保証の取り組み
- ・ これまでの対象者
  - DO-ITおよびそれ以外の高学歴かつ継続的就労経験を得ることが難しかった経験を持つ一部既卒者を含む学生20名がアルバイト雇用(2013年5月現在:時給は東京都最低賃金850円開始, 交通費支給)
  - 筋ジストロフィ, 脳性まひ, 脊髄損傷, 四肢欠損, 難聴, 発達障害(アスペルガー症候群), 視覚障害, 高次脳機能障害, 神経難病, うつ, 双極性障害, 統合失調症のある当事者
- ・ 作業内容
  - 大学をフィールドとした研究補助作業全般に従事(デジタルコンテンツ作成, テープ起こし, イベント開催補助, 掃除/保守業務, 印刷等オフィス補助雑務)

19

## 1. 合理的配慮の要請と提供の実践

- ・ 「我慢と訓練」ではなく「便利さ」「楽さ」の実体験を通じて自分自身のニーズと具体的調整の方法を知る
- ・ 支援技術の提供
  - 音声読み上げソフトウェア(読み書き支援), ICレコーダ(メモ支援), ノイズキャンセリングヘッドフォンや耳栓(注意・過敏症支援), スケジュールシート(見通し支援), 椅子等の姿勢保持具の配慮, 移動手段の体験(電動車いす, 改造車両)
    - ・ 発達障害のある人の職業訓練ハンドブック, 厚生労働省職業能力開発室・平成19年度発達障害者に対する効果的な職業訓練のあり方に関する研究会(監修)
    - ・ 発達障害のある人の就労に効果的ツール/大学での雇用事例, 職業能力開発大学校高度訓練室(編著), 平成19年度発達障害者に対する効果的な職業訓練事例集
- ・ 勤務地・勤務時間の個別調整
  - 一日3~8時間, 隔週1日~週数日等を本人との相談の上, 個々に調整
  - 通勤が困難な者に対し, 遠隔会議システム(Skype, Facetime)により常時接続した状態で在宅作業

20

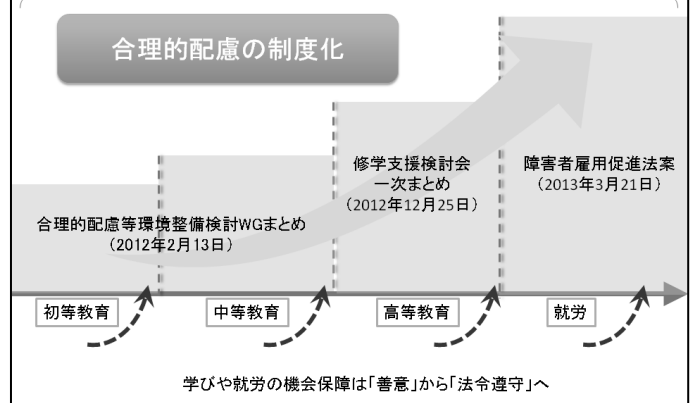
## 2. 積極的機会保証

- ・ 合理的配慮にとどまらない支援の提供
  - 自己モニタリングの支援
    - ・ モニタリングシステム「Lime」を活用した自己モニタリング機会の提供(タイプ数, エラー率:BackSpace/Delete, かな漢字変換の所用時間をモニタリング)
    - ・ タスク/スケジュールの処理・管理方法(マインドマップ, GTD, スケジュールシート)の研修実施
  - 労働やキャリアに関する「脱暗黙化」した知識伝達
    - ・ 暗黙の了解として言語化されにくい, 就労に関わるルール(守秘義務, 納税)を明示的に提示することを通じた就労概念についての情報提示
  - 専門家によるチュータリング/ピアカウンセリング
    - ・ 1および2の全体に関連して, 専門家や同様の障害を持つメンターからのアドバイスを受ける機会を提供
    - ・ 就労やその継続のための生活支援に関わる福祉リソースをピアの経験を通じて知る

21

障害者基本法改正(「合理的な配慮」の登場)2011年8月5日改正

障害者差別解消法案(「差別禁止」と「合理的配慮」の法制化)2013年4月26日閣議決定



22

## DO-IT Japan 夏季プログラム



- ・ 2013年8月4~7日 @ 東京大学先端科学技術研究センター
- ・ 一般公開イベント(8月7日)
- ・ 5月31日, 6月1日には東大先端研オープンハウスも

23



24



